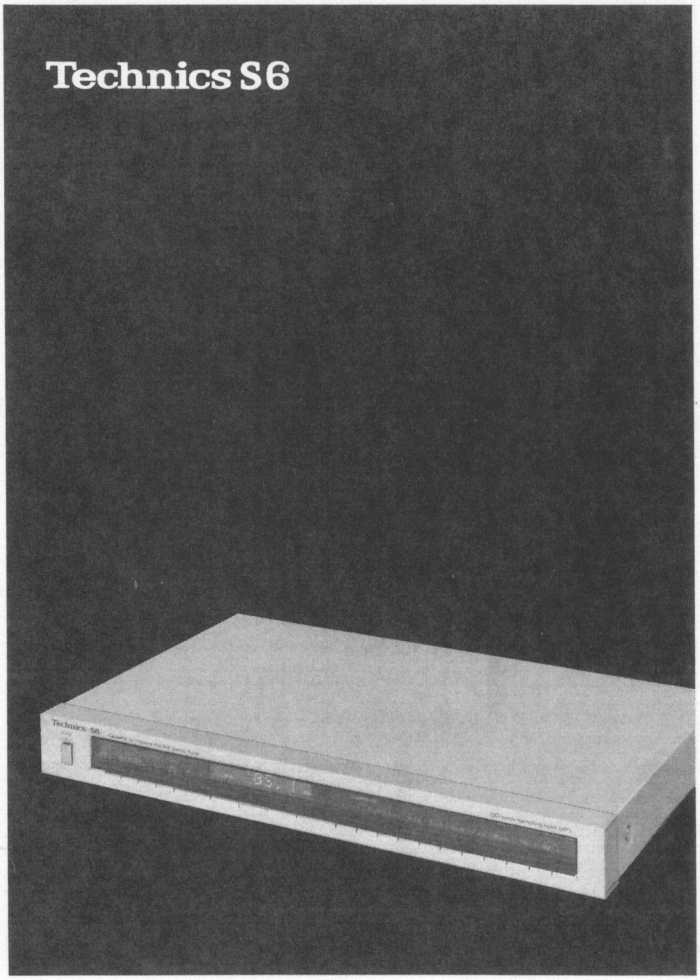
Technics

クォーツシンセサイザ　FM/AMステレオチューナ

ST-S6

取扱説明書



■ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。なお、別紙の「ご愛用のしおり」もよくお読みください。

■保証書はお求めの販売店で受取っていただき、内容をよくお確かめのうえ、後々のためこの説明書とともに大切に保存してください。

上手に使って上手に節電
音量は必要以上に大きくしないで！ ご使用後は、忘れずに電源を切って！

松下電器産業株式会社

このたびは、Technicsのクォーツシンセサイザ FM/AM ステレオチューナST-S6をお買い求めいただき、まことにありがとうございました。

目　次

●付属品……2
●定格……2
●ステレオシステムの構成と接続……3
●FMアンテナの接続と使い方……4
●AMアンテナの接続と使い方……4
●前面操作部の名称と使い方……5
●プリセットメモリーのしかた……7
●ラジオ放送の聞き方……8
●異常症状と対策……9
●ラストワンメモリーと
　バックアップメモリーについて……裏表紙
●メモリーを消さないためのご注意……裏表紙

付属品

FM簡易型室内アンテナ……1
300Ω→75Ω変換プラグ……1
F型プラグ、リング……1
ステレオピンタイプコード……1

定　格

■FMチューナ部

受信周波数帯	：76.1MHz～89.9MHz
実用感度(75Ω)	：12.8dBf　1.2μV
S/N 50dB感度(75Ω)	
モノラル	：18.1dBf　2.2μV
ステレオ	：38.1dBf　2.2μV
全高調波歪率	
モノラル	：0.04%(normal)
ステレオ	：0.06%(normal)
S/N比　モノラル	：82dB
周波数特性	：5Hz～18kHz $^{+0.2}_{-0.5}$dB
実効選択度	
normal	：55dB(400kHz)
super narrow	：25dB(200kHz)
キャプチュアレシオ	：1.0dB
イメージ妨害比(83MHz)	：95dB
IF妨害比(83MHz)	：105dB
スプリアス妨害比(83MHz)	：95dB
AMサプレッション	：55dB
ステレオセパレーション	
20Hz	：60dB
1kHz	：60dB
10kHz	：40dB
リークキャリア(19kHz)	：−70dB
アンテナ端子	：75Ω同軸型

■AMチューナ部

受信周波数帯	：522kHz～1611kHz
実用感度(S/N＝20dB)	：250μV/m　30μV
選択度	：55dB
イメージ妨害比(999kHz)	：55dB
IF妨害比(999kHz)	：45dB

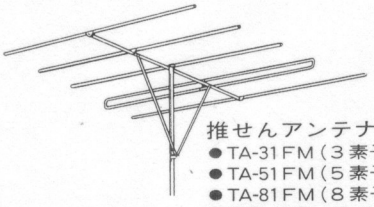
■総合

停電補償	：約1週間 充電方式
出力電圧	：0.6V
消費電力	：8W
電源	：AC100V 50Hz/60Hz
寸法(幅×高さ×奥行)	：430×53×300mm
重量	：3.3kg

ステレオシステムの構成と接続

FM、AM放送ともよい音質で受信するため、屋外アンテナの設置をお勧めします。

FM屋外アンテナ
(山間部や鉄筋ビル内など、電波の弱い地域では必要です。)

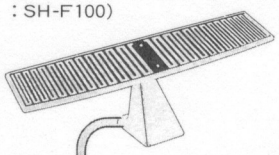


推せんアンテナ
- TA-31FM(3素子)
- TA-51FM(5素子)
- TA-81FM(8素子)

素子数が多いほど性能がよくなります。

FM室内アンテナ
(Technics FMウィングアンテナ
:SH-F100)

または



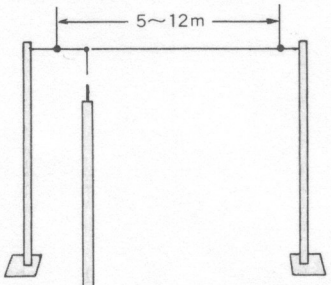
FM簡易型室内アンテナ(付属)



押しピンまたはセロテープ

T字型に広げ最も受信状態のよい高さや方向を捜し、固定する。

AM屋外アンテナ
(山間部や鉄筋ビル内など、電波の弱い地域では必要です。)



5〜12m のビニール被覆線を窓際などへ水平に設置する。

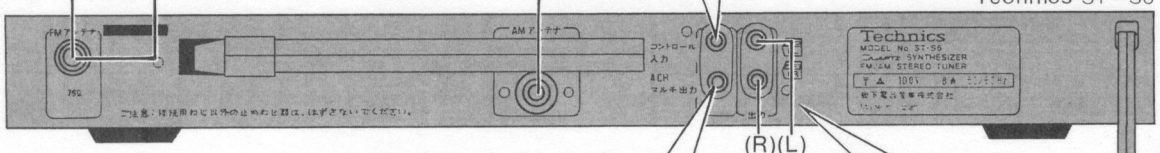
ビニール被覆線

F型プラグ(付属)

300Ω→75Ω変換プラグ(付属)

コントロール入力端子(CONTROL INPUT):
本機を外部からの制御信号でコントロールするための、タイマーやリモートコントロールを接続する端子です。

Technics ST−S6



(R)(L)

4チャンネルマルチプレックス出力端子(4 CH MPX OUT):
将来予想されるFM4チャンネル放送の信号出力端子です。

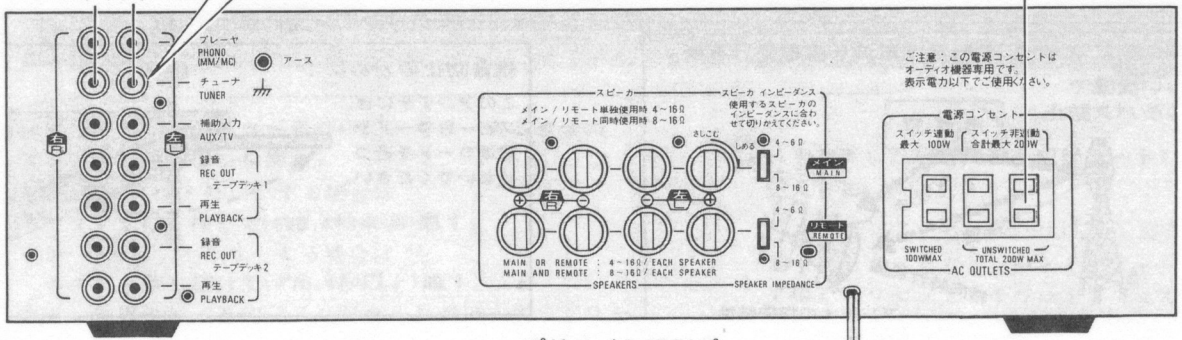
チューナ出力端子(OUTPUT)

ステレオピンタイプコード(付属)

本機の電源プラグは:
必ずアンプの「UNSWITCHED」のコンセントへ接続してください。
「SWITCHED」に接続すると、プリセットメモリーが消えることがあります。

チューナ入力端子(TUNER)

(R)(L)



プリメインアンプ
(図は、Technics SU-V7)

ご家庭の電源コンセント
(AC 100V)へ接続する

FMアンテナの接続と使い方

放送を最良の状態で受信するため、ご使用地域の電波状態に応じた適切なアンテナをお選びください。

■ FM屋外アンテナ

1.選び方

1)放送電波の強い地域（放送局が近く、送信アンテナの見通せるような所）：
3～5素子程度のアンテナを設置してください。

2)放送電波の弱い地域（山間部やビルの谷間など）：
5素子以上のアンテナを設置してください。

注）何素子のアンテナが良いかは、販売店ともよくご相談のうえお求めください。

2.アンテナ線

外部からの妨害雑音に強い、75Ω同軸ケーブル（品番3C-2V）の使用をお勧めします。

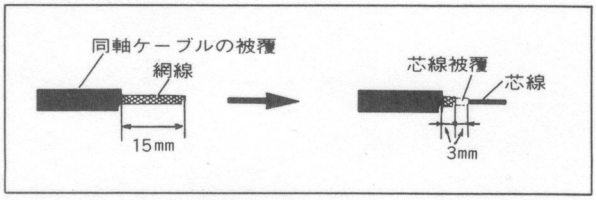
3.インピーダンスマッチング

75Ω同軸ケーブルが直接接続できないアンテナの場合は、マッチングトランスをお求めいただき、トランスはできるだけアンテナの近くに設置してください。

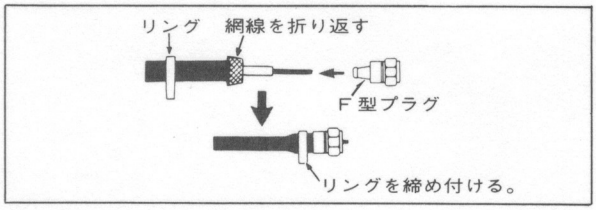
4.本機のアンテナ端子への接続のしかた

付属のF型プラグを使用し、次の要領で接続してください。

1)同軸ケーブルの被覆と芯線被覆をむく。



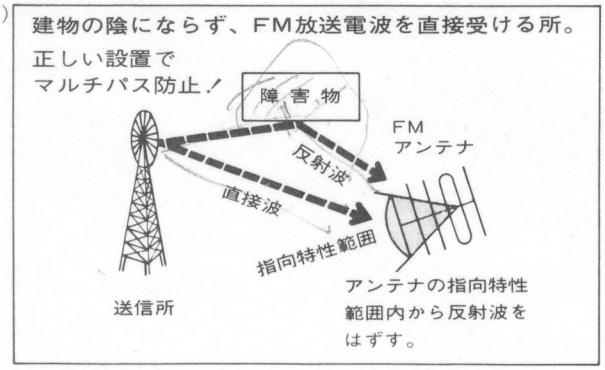
2)リングを差し込んだ後網線を折り返し、F型プラグを網線と芯線被覆の間に差し込み、リングを締め付ける。



5.設置場所

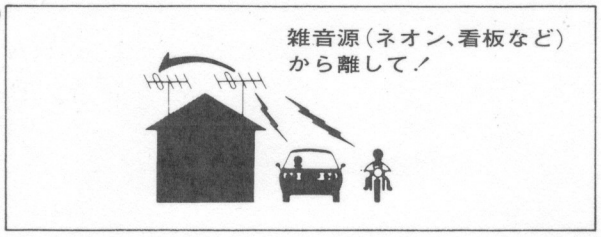
次の場所に設置してください。

1)

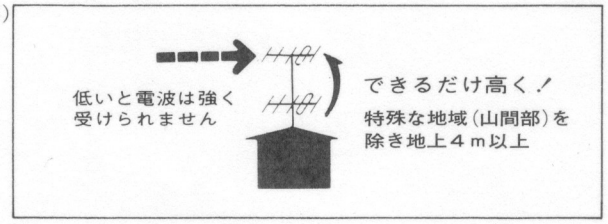


注）マルチパスひずみとは：
近くの山やビルに反射した電波（反射波）と送信所からの電波（直接波）の干渉によるひずみ。

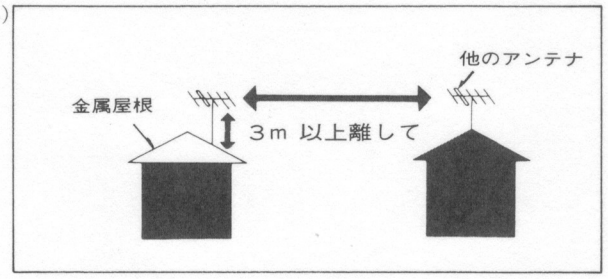
2)



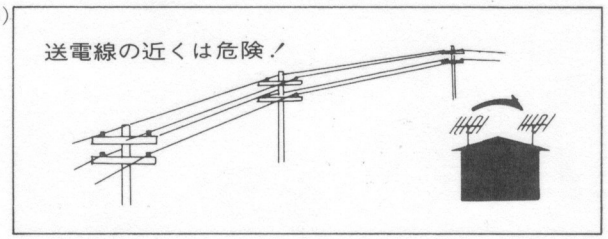
3)



4)



5)

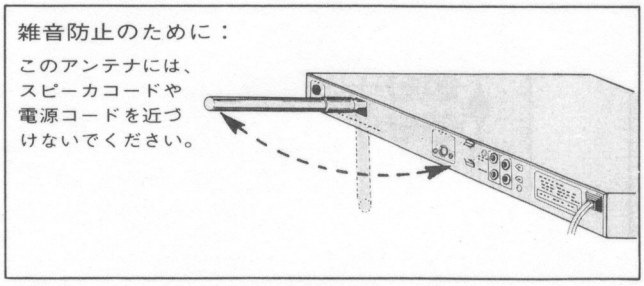


AMアンテナの接続と使い方

本機は、AM用高感度フェライトバーアンテナを内蔵していますので、特に電波の弱い地域以外は、屋外アンテナを必要としません。

■フェライトバーアンテナの使い方

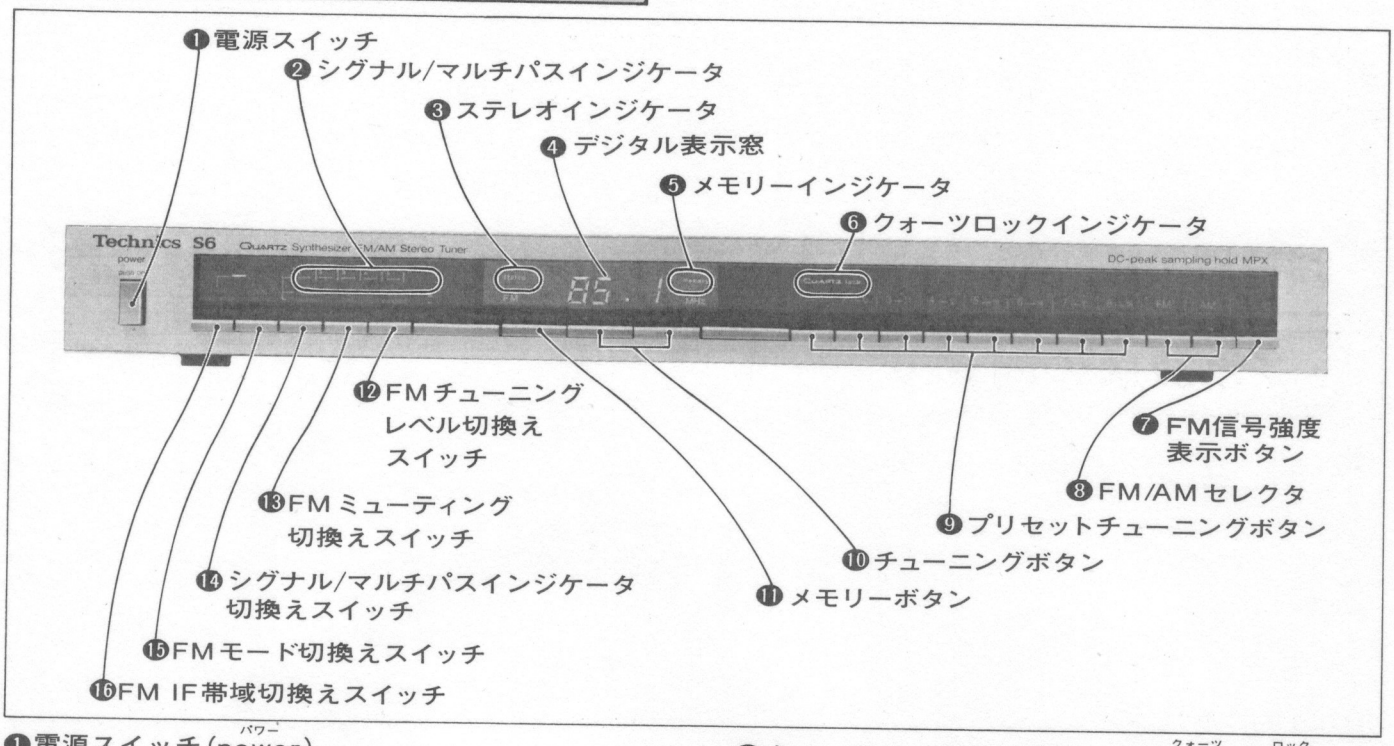
フェライトバーアンテナを手前に引出し、最も受信状態の良い位置で固定してください。



■ AM屋外アンテナの設置のしかた

山間部や鉄筋ビルの谷間など、放送電波が弱く、フェライトバーアンテナだけでは受信困難の場合は、屋外に専用アンテナを設置してください。この場合、送電線、高圧線、高い建物、道路から離れた所をお選びください。

前面操作部の名称と使い方



❶電源スイッチ(power)

注、電源を入れる場合は、プリメインアンプの音量調整つまみを必ず「0」にしてください。

❷シグナル/マルチパスインジケータ

FMとAM放送の受信電波の強さと、FMマルチパスの受けている状態を指示するインジケータで、最も右に点灯するほど電波状態が良いことを表します。

なお、表示は、シグナル/マルチパスインジケータ切換えスイッチ⑭の位置によって変わります。

❸ステレオインジケータ(stereo)

FMステレオ放送を受信すると点灯します。

なお、FMモード切換えスイッチ⑮が「mono」の場合は、点灯しません。

❹デジタル表示窓

通常は、FMまたはAMの周波数を表示します。

プリセットチューニングボタン⑨を押すと、チャンネル番号が表示され、数秒後に周波数表示に変わります。

また、FM放送を受信中にFM信号強度表示ボタン⑦を押すと、dB(デシベル)の単位で信号強度が表示されます。

❺メモリーインジケータ(memory)

メモリーボタン⑪を押すと点灯します。

マニュアル(手動)でプリセットメモリーする場合は、このインジケータが点灯中(約4秒間)にプリセットチューニングボタン⑨を押してください。

なお、オート(自動)でメモリーする場合は、点灯しません。

❻クォーツロックインジケータ(QUARTZ lock)

選局した周波数が放送局の送信周波数に正確に同調すると点灯します。

なお、電波の弱い局を受信した場合は、点灯しないことがあります。

❼FM信号強度表示ボタン(FM signal)

FM放送を受信中にボタンを押すと、2dB(デシベル)毎に信号強度(放送を受けている信号の強さ)が表示されます。50dB以上の強さで受信している場合は、数字とdBの間に点(■)が表示され、50■dB以上の強い信号で受信していることを表します。(54■dB付近で飽和します。)

なお、周波数表示に戻す場合は、再度、ボタンを押してください。

注、録音中は、ボタンを押さないでください。
ボタンを押すと、音が途切れます。

❽FM/AMセレクタ(selector)

FM:

FM放送を聞く場合は、このボタンを押してください。

AM:

AM放送を聞く場合は、このボタンを押してください。

❾プリセットチューニングボタン(1～16)(FM/AM random preset tuning)

選局する場合とFMとAMの放送局をプリセットメモリーする場合に使用するボタンで、希望の放送局をプリセットメモリーしておくと、後はボタンを押すだけで簡単に選局することができます。

軽く押して(約0.4秒未満)離すと1～8CH(表の局)が受信され、押し続けて(約0.4秒以上)離すと9～16CH(裏の局)が受信されます。

(プリセットメモリーのしかたは、7ページをご参照)

⑩チューニングボタン(tuning, auto scan)

放送局を選局するボタンです。

ボタンを押して(約0.4秒未満)離すと、FMは0.1MHz(100kHz)、AMは9kHz毎に周波数が変化し、ボタンを押し続けて(約0.4秒以上)離すと放送局をオート(自動)で選局して止まります。なお、放送電波が弱い場合は、オート選局ができないことがありますので、この場合は、マニュアル(手動)で選局してください。

◀(ダウン):

受信周波数を低い方に変化させる場合は、このボタンを押してください。

▶(アップ):

受信周波数を高い方に変化させる場合は、このボタンを押してください。

注, オートで選局中に選局を停止させる場合は、再度アップまたはダウンのボタンを押してください。

⑪メモリーボタン(memory, auto memory)

FMとAMの放送局をプリセットチューニングボタン⑨にプリセットメモリー(記憶)させる場合に使用します。メモリーのしかたには、オート(自動)とマニュアル(手動)がありますので、次の方法で行ってください。

auto(自動)でプリセットメモリーをする場合:

ボタンを押し(約0.4秒以上)周波数が変化し始めると、ボタンを離してください。

FMは1～8CH(表の局)に、AMは9～16CH(裏の局)に、デジタル表示窓④に表示されている周波数を基点に高い方へ自動的に選局してメモリーされます。

なお、ボタンを押している間は、メモリーされませんので、周波数が変化し始めると離してください。

manual(手動)でプリセットメモリーする場合:

ボタンを軽く押して(約0.4秒未満)離すとメモリーインジケータ⑤が点灯しますので、このインジケータが点灯中に、ご希望のプリセットチューニングボタン⑨を押してください。

(プリセットメモリーのしかたは、7ページをご参照)

⑫FMチューニングレベル切換えスイッチ (FM tuning level)

FM放送を受信する場合の信号のレベルを切り替えるスイッチです。

fine(▲→▼):

放送電波の強い局を受信する場合は、この位置にします。

この位置では、放送電波が弱く、雑音の多い局は除去されます。

standard(▼→▲):

放送電波の弱い局を受信する場合は、この位置にします。

この位置にすると、弱い局と強い局を受信することができます。

⑬FMミューティング切換えスイッチ(FM muting)

FM放送特有の局間雑音(放送局のないところでできる雑音)を除去するスイッチです。

on(▲→▼):

通常は、この位置で使用してください。

FM放送特有の局間雑音が除去されます。

off(▼→▲):

山間部等、放送電波の弱い局を受信する場合は、この位置にしてください。

この位置にすると、雑音は少なく安定した受信が行われますが、局間雑音が出ますので音量を絞って選局してください。

⑭シグナル/マルチパスインジケータ切換えスイッチ (display)

シグナル/マルチパスインジケータ②の表示方法を切り替えるスイッチです。

signal(▲→▼):

この位置にすると、シグナルインジケータとして動作します。インジケータが右に点灯するほど、受信電波が強いことを表します。

FM multipath(▼→▲):

この位置にすると、マルチパスインジケータとして動作します。インジケータが右に点灯するほど、マルチパス歪が少ないことを表します。

なお、マルチパスインジケータは、FMステレオ放送受信時のみ動作します。

(マルチパスひずみは、4ページをご参照)

⑮FMモード切換えスイッチ(FM mode)

FM放送をステレオ受信、またはモノラル受信に切り替えるスイッチです。

auto(▲→▼):

この位置にすると、FMのステレオ放送はステレオで、モノラル放送はモノラルとして受信されます。

mono(▼→▲):

この位置にすると、FMのステレオ放送でも、モノラル放送として受信されます。

⑯FM IF帯域切換えスイッチ(FM IF band)

隣接局の影響や遠隔地等により電波が弱く妨害波が混入し、希望放送局が受信できない場合に使用するスイッチです。

normal(▲→▼):

受信電波の強い地域や妨害波の影響が少ない場合は、この位置にしてください。

この位置にすると上段のインジケータが点灯します。

super narrow(▼→▲):

妨害波が混入し、希望放送局が受信できない場合は、この位置にしてください。

プリセットメモリーのしかた (ラジオ放送局のメモリー)

本機は、ＦＭとＡＭの放送局を合計16局（16チャンネル）プリセットメモリー（あらかじめ放送局を記憶させること）させることができます。
プリセットメモリーをしておくと、後はボタンを押すだけで簡単に選局することができます。

■プリセットメモリーの方法

プリセットメモリーの方法には、オート（自動）とマニュアル（手動）がありますので、どちらでメモリーするかを決めてください。

1. オートによる方法：

ＦＭは１～８ＣＨ（チャンネル）へ、ＡＭは９～16ＣＨ（チャンネル）へ、それぞれデジタル表示窓④に表示されている周波数を基点にして、低い周波数の局から順に自動的にメモリーされます。
なお、遠隔地や山間部などで放送電波の弱い局を受信する場合はメモリーされませんのでご注意ください。

2. マニュアルによる方法：

ＦＭまたはＡＭ放送のご希望の局をご希望のチャンネル（1～16ＣＨ）に自由にメモリーすることができます。
従って、よく聞く放送の順にメモリーしたり、またオートではメモリーできない放送電波の弱い局をメモリーする場合等にご利用ください。

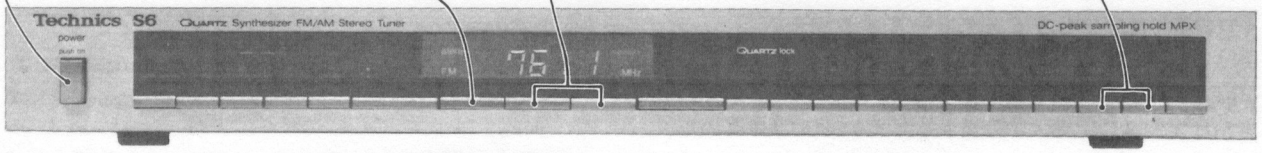
オートプリセットメモリーのしかた

1 「on（オン）」（▲ → ▬）にする
（電源が入る。）

2 ・FM放送をメモリーするとき：「FM」を押す。
・AM放送をメモリーするとき：「AM」を押す。

3 ・FM放送をメモリーするとき：「76.1MHz」に合わせる。
・AM放送をメモリーするとき：「522kHz」に合わせる。

4 押して周波数が変化し始めると離す。
（周波数は、高い方へ変化し、順に低い周波数の局から自動的にメモリーされる。）



5 各チャンネルにメモリーされている放送局名を確認し、記録シート（８ページ）に記入する。

マニュアルプリセットメモリーのしかた

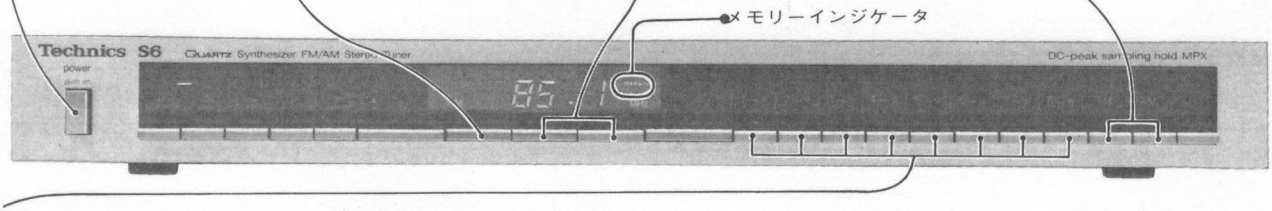
1 「on（オン）」（▲ → ▬）にする。
（電源が入る。）

2 ・FM放送をメモリーするとき：「FM」を押す。
・AM放送をメモリーするとき：「AM」を押す。

3 希望の放送局を受信する。
受信周波数は「▶（アップ）」を押すと高い方に変化し、「◀（ダウン）」を押すと低い方に変化する。

4 軽く押して（約0.4秒未満）離す。
（メモリーインジケータが約４秒間点灯する。）

ご注意：誤って長く押す（約0.4秒以上）と周波数が変化し始め、オートでプリセットメモリーされます。



5 メモリーインジケータが点灯中にメモリーする希望のチャンネルのボタンを押す。
- １～８ＣＨ（チャンネル）にメモリーする場合は：
  ボタンを軽く押して（約0.4秒未満）離す。
- ９～16ＣＨ（チャンネル）にメモリーする場合は：
  ボタンを押し続けて（約0.4秒以上）離す。

ボタンを押すとメモリーインジケータが消えて、プリセットメモリーが完了する。
注，ボタンを押す前にメモリーインジケータが消えた場合は、再度、手順４のボタンを押す。

6 メモリーした放送局名を記録シート（８ページ）に記入する。
以上でプリセットメモリーは完了です。
他のプリセットチューニングボタンにも２～５の手順でプリセットメモリーをしてください。

マニュアルプリセットメモリー時のご注意：
マニュアル操作でプリセットメモリーする場合は、メモリーボタンを押すと同時（約0.4秒未満）に離してください。
0.4秒以上押すと周波数が変化し始め、オートでプリセットメモリーされます。この場合は、前のメモリーが他の放送局に変わります。

■プリセットメモリー時のご注意

1. プリセットチューニングボタンの操作

プリセットチューニングボタン⑨には、1CH(チャンネル)と9CH(チャンネル)（1－9）、2CH(チャンネル)と10CH(チャンネル)（2－10）というように、1つのボタンに2つの放送局をメモリーすることができます。

従って、1CH(チャンネル)にメモリーした後、9CH(チャンネル)にメモリーする場合は、ボタンを約0.4秒以上押してください。

短い(約0.4秒未満)場合には、9CH(チャンネル)にメモリーしようとする局が1CH(チャンネル)にメモリーされ、すでに1CH(チャンネル)にメモリーされていた局が消去されます。

2. オートでメモリーした場合

オートでメモリーすると、FM放送は1～8CH(チャンネル)、AM放送は9～16CH(チャンネル)へ自動的にメモリーされます。しかしFM放送局が2局しかない地域の場合は、1CH(チャンネル)と2CH(チャンネル)にメモリーされ、3～8CH(チャンネル)にはメモリーされません。従って、3～8CH(チャンネル)へはマニュアルでメモリーしてください。

なお、メモリーする場合は、1項のメモリーボタンの操作をよくお読みください。

3. 新しい放送局をプリセットメモリーすると、最初にメモリーされていた放送局は消去されます。

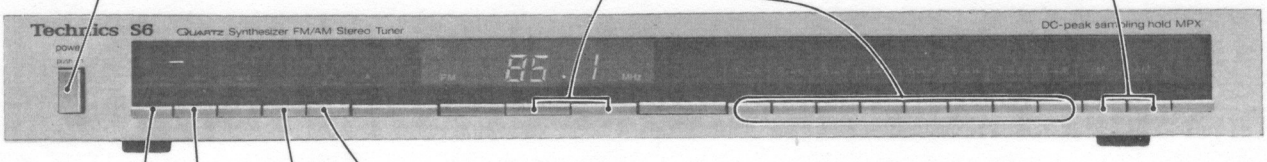
ラジオ放送の聞き方

1 プリメインアンプを操作し、
ラジオ放送を聞く状態にする。

2 「on(オン)」(▲→▲)にする。
(電源が入る。)

3-1 選局する。
プリセットチューニングボタンで選局する場合は、
希望の放送局のボタンを押す。

3-2 選局する。
チューニングボタンで選局する場合は
(1)「FM」または「AM」を押す。
(2)ボタンを押し、希望の放送局の
周波数に合わせる。



4 「fine(ファイン)」(▲→▲)にする。
放送電波の弱い局を受信する場合は、「standard(スタンダード)」にする。

5 「on(オン)」(▲→▲)にする。
放送電波の弱い局を受信する場合は、「off(オフ)」にする。

6 「auto(オート)」(▲→▲)にする。
放送電波が弱く、ステレオ放送で雑音が多い場合は、「mono(モノ)」にする。

7 「normal(ノーマル)」(▲→▲)にする。
妨害波が混入し、希望放送局が受信できない場合は、「super(スーパー) narrow(ナロー)」にする。

記録シート(各チャンネルにメモリーした局を記録する)

放送局＼チャンネル	1CH	2CH	3CH	4CH	5CH	6CH	7CH	8CH
FM	朝日大阪 放送局 85.1 MHz	NHK大阪 放送局 88.1 MHz	NHK奈良 放送局 87.4 MHz	NHK神戸 放送局 86.5 MHz	＿＿ 放送局 ＿＿ MHz	＿＿ 放送局 ＿＿ MHz	＿＿ 放送局 ＿＿ MHz	＿＿ 放送局 ＿＿ MHz
AM	＿＿ 放送局 ＿＿ kHz	＿＿ 放送局 ＿＿ kHz	＿＿ 放送局 ＿＿ kHz	＿＿ 放送局 ＿＿ kHz	MBS京都 放送局 1143 kHz	朝日 放送局 1008 kHz	毎日 放送局 1179 kHz	ラジオ大阪 放送局 1314 kHz

放送局＼チャンネル	9CH	10CH	11CH	12CH	13CH	14CH	15CH	16CH
FM	NHK京都 放送局 82.8 MHz	NHK和歌山 放送局 83.2 MHz	NHK高松 放送局 86.0 MHz	ﾗｼﾞｵ愛知 放送局 80.7 MHz	＿＿ 放送局 ＿＿ MHz	＿＿ 放送局 ＿＿ MHz	＿＿ 放送局 ＿＿ MHz	＿＿ 放送局 ＿＿ MHz
AM	＿＿ 放送局 ＿＿ kHz	＿＿ 放送局 ＿＿ kHz	＿＿ 放送局 ＿＿ kHz	＿＿ 放送局 ＿＿ kHz	東京 放送局 954 kHz	中国ラジオ 放送局 1332 kHz	日本 放送局 1242 kHz	文化 放送局 1134 kHz

異常症状と対策

修理を依頼される前に再度この表をご確認ください。

なお、これらの処置をしても直らない場合やこの表以外の症状は、お求めの販売店または最寄りの「ご相談窓口」(別紙ご参照) にご相談ください。

注. この表は、本機とTechnicsのSU-V7の組み合せを基本に作成しています。

	症　状	主な原因	対策
FM放送のとき	FMステレオ放送のとき、モノラル放送に比べ「サー」というノイズが出る。	FMステレオ電波はモノラル電波に比べ、変調のしかたが異なるのでノイズが少し出る。	• アンプの高音調整つまみで高音部を下げてみる。 • FMモード切換えスイッチ⑮を、「mono(モノ)」にする。 • アンテナの設置場所、高さ、向きを変えてみる。 • 室内アンテナの場合は、屋外アンテナにする。 • 素子数の多いアンテナに変えてみる。
	モノラル放送、ステレオ放送とも雑音が多い。	• アンテナの設置場所や向きが不適当。 • 送信所が遠い。	
	FMステレオインジケータが「チカチカ」光り、完全に点灯しない。	• アンテナの設置場所や向きが不適当。 • 送信所が遠い。	• アンテナの設置場所、高さ、向きを変えてみる。 • 室内アンテナの場合は、屋外アンテナにする。 • 素子数の多いアンテナに変えてみる。 • FMチューニングレベル切換えスイッチ⑫を「standard(スタンダード)」に切り替えてみる。 • FM IF帯域切換えスイッチ⑯を「super narrow(スーパー ナロー)」に切り替えてみる。
	音がひずんだり小さくなったりする。	• 電波の乱れ。 • 近くを自動車が走っていたり、飛行機が飛んでいる。	
	ステレオ放送で雑音が多く、時々音が出なくなる。	• アンテナの設置場所や向きが不適当。 • 送信所が遠い。	
	ステレオ放送で音にひずみが多い。	近くにビルや山がある。 〔送信所からの電波(直接波)とビルや山に反射した電波(反射波)との干渉によりマルチパスひずみが生じる〕	
	自動車が通ると「バリバリ、ガリガリ」という雑音が入る。	自動車のエンジンが発火する際に生じるイグニッションノイズのため。	アンテナとその引き込み線を自動車の通る街路から離れた所に設置する。
	「ザーザー、ジージー」という雑音が連続的または断続的に発生する。	電気器具（蛍光灯、テレビ、小型直巻モータ、電気接点、整流装置など）から発生する放電現象や発振現象による影響。	• 本機と雑音源である電気器具を離してみる。 • 電気器具または本機に雑音防止器を取り付ける。
	プリセットチューニングボタン⑨で選局できない。	プリセットチューニングボタン⑨にプリセットメモリーされていない。	希望の放送局をプリセットメモリーする。
		バックアップメモリーを保持するゴールドキャパシタの充電量が消耗した。	電源スイッチを30分以上「on(オン)」にして充電を行い、プリセットメモリーをやりなおす。
	プリセットチューニングボタン⑨で選局し、周波数表示は出ているが音が出ない。	放送電波が弱く、FMミューティング切換えスイッチ⑬が「on(オン)」になっている。	FMミューティングスイッチ⑬を「off(オフ)」にする。
		放送電波が弱く、FMチューニングレベル切換えスイッチ⑫が「fine(ファイン)」になっている。	FMチューニングレベル切換えスイッチ⑫を「standard(スタンダード)」にする。
	ラストワンメモリーが復帰しない。	バックアップメモリーを保持するゴールドキャパシタの充電量が消耗した。	電源スイッチを30分以上「on(オン)」にして充電を行い、プリセットメモリーをやりなおす。
AM放送のとき	「ピーピー、チーチー」という音(ビート音)が入る。	テレビと同時に使用している。	テレビを消す。またはテレビとの距離を離す。
	放送に合わせると、ブーンという低い音(同調ハム)が入る。	アンテナ線が電源コードに近い。	アンテナ線と電源コードを離す。
		セットの電源コードを伝わってくる電波が電源周波数で変調を受ける。	• 電源プラグの向きを反対に差し替えてみる。 • 屋外に専用アンテナを設置する。
	「ザーザー、ジージー」という雑音が連続的または断続的に発生する。	電気器具（蛍光灯、テレビ、小型直巻モータ、電気接点、整流装置など）から発生する放電現象や発振現象による影響。	• 本機と雑音源である電気器具を離してみる。 • 電気器具または本機に雑音防止器を取り付ける。

異常症状と対策 (続き)

	症　状	主　な　原　因	対　策
すべてに共通した症状	電源を入れても音が出ない。	電源プラグの差し込みが不完全。	電源プラグの差し込みを確認する。
		スピーカコードやアンプなどとの接続が不完全。	各コードの接続を確認する。
		アンプの入力切換えスイッチの切り替えが不完全。	スイッチを確認し、正しい位置にする。
	ステレオのとき、各楽器の位置が定まらない。	スピーカコードの接続が⊕、⊖逆になっている。	スピーカコードの接続(⊕、⊖)を正しくする。
	ステレオのとき、左右の音が逆になる。	スピーカコードの接続が左右逆。	スピーカコードの接続を正しくする。
		各機器との接続コードの接続が左右逆。	各機器との接続コードの接続を正しくする。
	演奏中にブーンという低い音(ハム音またはバス音)が入る。	接続コードの近くに電源コードや蛍光灯などがある。	• 電気器具をできるだけ離してみる。 • 電源プラグの向きを反対に差し替えてみる。
		アース線の接続が不完全。	• アース線の接続を確かめる。 • アースを設置していない場合は、設置してみる。
	片側のスピーカだけ音が出ない。	スピーカコードがはずれている。	スピーカコードの接続を確認する。
		アンプの音量バランス調整つまみが中央になっていない。	つまみの印を中央にする。
	ラジオ放送とレコード演奏時の音量に差がある。	電波の強さとレコードの出力が異なるため。	アンプの音量調整つまみで、音量を調整する。
	演奏中に音が出なくなった。(各機器のランプは点灯している。)	アンプの入力に直流成分が加わったため。(使用するアンプにより異なる。)	各機器の接続部(特にスピーカ接続端子など)を確認し、なお音が出ない場合は、お求めの販売店または最寄りの「ご相談窓口」(別紙ご参照)に修理を依頼する。

ラストワンメモリーとバックアップメモリーについて

本機は、プリセットメモリー機能の他に、ラストワンメモリーとバックアップメモリーの機能を持っています。

ラストワンメモリーとは：

電源スイッチを「off(オフ)」にするときに聞いていたFMまたはAMの放送局をメモリーする機能で、この機能により、次に電源を「on(オン)」にすると「off(オフ)」にするときに聞いていた放送局を聞くことができます。

バックアップメモリーとは：

プリセットメモリーとラストワンメモリーの機能を保持する機能で、この機能により、停電の場合や本機の電源コードが電源コンセントから抜けた状態でも約1週間は、プリセットメモリーとラストワンメモリーの機能を保持することができます。

メモリーを消さないためのご注意

1. チューナの電源プラグは、必ずアンプの「スイッチ非連動」(UNSWITCHED(アンスイッチド))の電源コンセントに接続してください。
2. 電源が1週間以上切れた場合は、メモリーが消えますのでご注意ください。

例えば、(1)電源プラグをコンセントから抜いたとき、
(2)オーディオタイマーを使用し、タイマーを1週間以上動作させなかったとき、
(3)停電のときなどです。

このような場合は、再度プリセットメモリーが必要です。

(本機は、メモリーの保持をゴールドキャパシターで行っています。電源が1週間以上切れた場合は、本機の電源スイッチを30分以上「on(オン)」にし、ゴールドキャパシターの充電を行ってください。)

松下電器産業株式会社　ステレオ事業部
〒570　大阪府守口市松下町2番地　　☎(06) 992−1551

SQF20307
S0281K0